

令和5年度 青森市子ども会議フォーラム2023

FOR CHILDREN ～とどけ！市（まち）に私たちの声！～

- 1 日 時 令和5年11月19日（日）8時30分～12時45分
- 2 場 所 青森市議会議場、委員会室
- 3 出席者 子ども会議委員11名、子どもサポーター4名、事務局11名
- 4 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 市長あいさつ
 - (3) 私たちからの意見提案
 - (4) 市長総括
 - (5) 閉会

5 開催概要

市では、「青森市子どもの権利条例」において、毎年11月20日を「青森市子どもの権利の日」とし、この日にふさわしい活動を行うこととしています。

青森市子ども会議では、子どもが意見を表明し市政に参加する機会として「青森市子ども会議フォーラム2023 FOR CHILDREN ～とどけ！市（まち）に私たちの声！～」を、市議会議場をお借りして開催しました。

今年度新しく、会場にフォトスポットとキッズコーナーをつくりました。これは、昨年度の来場者アンケートで「小さい子どもも楽しめるコーナーがあると良い」という意見が多かったこと、委員からも「フォーラムに来場した人がInstagram等に投稿しやすい写真コーナーがあると盛り上がり良い」という意見が多かったことで実現しました。



リハーサル

午前8時30分、委員会室に集まって、各グループで原稿を読む順番と感想を発表する人を決めました。それぞれ自分の読むところを確認し終えたところで9時になったため、議場に移動しリハーサルを行いました。リハーサルから、原稿ばかりを見るのではなく、目線より少し上を見て堂々と話すことを意識しました。

開会

司会を務める高校生委員から、開会のあいさつと子ども会議についての説明がありました。

本日のイベントは、子どもにとって大切な権利の一つである「意見を表明し参加する権利」を主眼に置き、青森市子ども会議の委員が企画・運営しています。

私たちが参加している青森市子ども会議は「青森市子どもの権利条例」に定められており、今年度は、小学生 8 名、中学生 12 名、高校生 5 名の委員が、子ども会議サポーター 9 名のアドバイスをいただきながら「もっと魅力あふれる青森市に！」をテーマに活動を行いました。

本日は、ここ青森市議会議場において、「私たちからの意見提案」として、2 グループから今年度の活動を通じて気づいたことを発表し、西市長をはじめ理事者のみなさまからお答えいただきます。

最後まで私たちの発表をお聞きいただけたらと思います。



市長あいさつ

市長から、昨年度の子ども会議フォーラムでの意見・提案に対する成果について説明がありました。

本市では、毎年 11 月 20 日を「青森市子どもの権利の日」と定め、子どもが意見を表明し、参加する機会を提供しています。ここ青森市議会議場での開催は今回で 6 回目となります。

前回の子ども会議フォーラム 2022 では、2 つのグループから意見・提案をいただきました。

はじめに、Instagram での情報発信に取り組んだ「PCAPCA (パカパカ) グループ」からいただいた、「浪岡城跡へ各所の説明用二次元コードを備え付けてほしい」との意見には、令和 5 年 4 月に城跡の雰囲気にも馴染む立て札風の看板を設置しました。こちらの看板に掲載されている二次元コードを読み取っていただくと、各館の概要説明がされている市ホームページへ繋がっております。浪岡城跡の全体図や各館の見どころも分かるようになり、より浪岡城跡の魅力が伝わるようになりました。子ども会議委員の皆さんも、もう一度訪れ、立て看板を利用した二次元コードから浪岡城跡の魅力を知って欲しいと思います。

続いて、自分たちでスポーツイベントの企画運営を行った「Event Enjoy チーム」からは、「市が企画したスポーツイベント情報を入手しやすい環境を整備してほしい」という提案をいただきました。この提案を受け、市ホームページでは、令和 5 年 1 月から「みんなのスポーツイベント」ページを作成し、毎月のスポーツイベントをイラストも使って分かりやすく情報提供しています。

このように、皆さんからの声や他の人たちの声を集め、形にすることによって、より魅力あふれる青森市になっていくものと思っております。皆さんが青森市に誇りをもって、これからの道を歩いていくこと、それが未来の青森市を創っていく原動力になります。青森市子ども会議委員の皆さんのこれからの多に期待して私からの開会のご挨拶といたします。



私たちからの意見提案（推しを発信し隊）

<活動をはじめたきっかけ>

今年度やりたいこととして、令和3年に開設した子ども会議公式 Instagram を引き続き活用し、「青森市の魅力をもっと多くの人に広めたい」、そして「自分たちも知らない魅力を見つけたい」と考えたメンバーで構成されているのが、私たちオン隊です。グループ名の由来は、その名前のおりいろんな青森市の推したい魅力を発信したい思いから決めました。

私たちが広めたい魅力として、「スポット」では国際芸術センター（ACAC）と浅虫地区の2つを、「独自の食」では棒パンとあおもり海道そばの2つを主軸に活動を進めました。



<これまでの活動>

○スポット① 国際芸術センター

8月に、毎月第4日曜日に開催している「見えない建築ツアー」に参加しました。虫や鳥の鳴き声や周りにある森などの自然を楽しみながら国際芸術センターそのものや野外彫刻などの展示について説明を受けました。

国際芸術センターは、有名な建築士である安藤忠雄氏が手掛けた建造物で、美術館のように作品が展示されるだけでなく、芸術家を支援するために泊まる場所や作品を作る場所もある複合施設です。

野外彫刻は、森や木々、道路にまぎれていたり、屋根の上にも草を生やしていたりなど、「自然と一体」がテーマになっているように感じました。そして、野外で展示されていることで、雪や雨にさらされ色が薄くなったり、台風により一部がなくなったりしていましたが、それも自然の一部だという作者の意向を尊重し、そのまま展示を続けているという話がとても趣深かったです。

今年度は猛暑が続いていたこともあり、見学しているととても暑かったです。施設のスタッフさんに聞くと、雪を活用した冷房になっていることを教えてもらい、雪がこんなところにも活用されていることに感動しました。

この施設は無料で見学できることが魅力の一つで、無料で楽しめるスポットなのに、展示されている作品や四季折々でみせる景観や自然などの魅力がまだまだ青森市民にも知られていないと感じました。



○スポット② 浅虫地区

青森市子ども会議委員が考える浅虫の魅力がたっぷり伝わる散策コースをつくりました。このコースは、有名な浅虫の温泉を満喫でき、低予算で楽しめるコースで、浅虫温泉駅前にある誰でも無料で入れる足湯からスタートします。足湯を満喫した後は、温泉卵と飲泉が無料で体験でき



るスポットに向かい、二度目の足湯と温泉の味を堪能します。そこへ向かう途中で、有名な『あさむし温泉プリン金治郎』のプリンをテイクアウトすることもできます。そして、最後に浅虫の海を眺めながらジェラートを食べるコースです。

このコースは散策して疲れた足を癒しながら回り、最後にリフレッシュできるのが押しポイントで、足湯の温度の違いなども楽しめるコースになったと思います。

○食① 棒パン

私たちからすると、棒パンはイベントや学校の祭で体験できる親しみのあるものなので、青森市以外の人には知らないと思った時はとても驚きました。そのため、青森市の食の一つとして棒パンを推すためにレシピづくりから計画しました。いつもは焼くだけの棒パンも、生地作り、棒の用意や火おこしを自分たちで全部行ってみると、意外と大変でした。

食①棒パン

- ・サミットの開催やテレビにも取り上げられるなど、関心が集まってきている「食」
- ・小さいころから親しんでいたため、青森市以外では知られていないことに驚いた

【体験】

レシピを決める→棒も準備→生地をつくる(冷凍)→炭起こし→棒に巻き付けて焼く(八甲田憩いの牧場) →バタートッピングがおすすすめ→

いつもは焼くだけの棒パンも全部自分たちで行うのは大変だった。棒パンの魅力を推していきます！

○食② あおもり海道そば

平成 30 年度の子ども会議の活動で知った青森市の特産品で、海道である国道 280 号線沿いで作られているから「海道そば」と命名され、JA あおもりでの直売だけでなく、市内のお店でも提供されています。より多くの人に手に取ってもらえるよう、私たちもこれから PR を頑張りますが、いろんな青森市の食が集まるブースなどがあると、観光客はもちろん市民にも青森市の食の魅力が伝わり、集客効果も期待できるのではないかと考えました。

食②あおもり海道そば

<あおもり海道そばとは…>

- ・平成30年度の子ども会議の活動の中で知った青森市の特産品
- ・海道である国道280号線などの海沿いでつくられていることが名前の由来

市内飲食店で食べられる！JAあすなる自売センターでも購入できる！

<推すために>

- ・青森市の特産品や食が集まるブースがあると魅力が伝わりやすいのでは？

【反省】食の活動の中で食べきれず持ち帰ってしまった… →身近な食である学校給食の量や味付けの基準を知り、これからの活動に活かしたい

また、これらの食の活動の中で、最後に食べる時間が足りなかったり量が多かったりと、活動時間中に食べ切れないことがありました。今後の活動の参考にしたいため、自分たちの身近な食である学校給食の味付けや量が、どのような基準で決められているのか知りたいと思いました。

○「まつもと未来委員会」とオンライン交流

長野県松本市にある「まつもと未来委員会」とオンライン交流を行い、お互いの市の魅力を教え合ったり、子どもの権利に関するクイズを出し合ったりしました。りんごや雪国など共通点が多い中、海や城の有無の違いがお互いの市の魅力になるのではないかと考えました。

ただ、お互いりんごが名産でも育てている品種が違うなど、共通点の中にも違いがあることを発見しました。お互いの異なる部分が魅力的に映るのはもちろんですが、共通点の中での違いや、課題の中にも魅力があることを感じました。そこで、私たちが考えた「海の魅力」や「お互いの

共通点の中にも違いを発見！

青森市 「ふし」「つがる」 松本市 「秋映」「シナノスイート」「シナノゴールド」

「温泉」→足湯 「湧き水」→水飲み場、水路

- ・お互いにないものが魅力
- ・共通点の中での違いも魅力
- ・課題の中にも魅力があることを知った

Instagramに投稿！

違いから感じた魅力」などを公式 Instagram に投稿しました。交流会で松本市の魅力を聞いてみると「良いなあ」と思うことが多かったですが、それに負けないようにわたしたちも青森市の魅力をどんどん推して「青森市のファン」を増やしたいと思います。

以上の、食の体験と国際芸術センターの見学を踏まえ、私たちオシ隊から 3 つの意見提案があります。

- ① 青森市の学校給食の量はどのように決められているのか、また食べ残しを減らすためにどのような取組をしているのか今後の活動に活かすために教えてください。
- ② 新中央埠頭へのねぶた小屋の常設化を前向きに検討すると報道されていました。八食センターやラーメン街道などのような、青森市のソウルフードを提供する施設の整備についても一緒に検討できないでしょうか。
- ③ 国際芸術センターの冷房システムについて、十分な冷房機能はないように感じました。滞在するアーティストやセンターを訪れる人が快適に過ごせるために、今後、冷房等の設備を設置してはいかがでしょうか。

市からの回答

(西市長)

②の質問についてお答えします。ねぶた小屋と青森市のソウルフードを提供する施設をあわせて建設するという、子ども会議の皆さんからのご提案は、世界中を旅行するクルーズ船が東北で一番寄港する新中央埠頭をはじめ、ワ・ラッセやアスパム、青函連絡船八甲田丸、青森駅前ビーチなど観光スポットが集まるウォーターフロント地区一帯の活性化につながるとても良いアイデアだと考えます。

今後、ねぶた小屋の建設について検討を進めていくに当たっては、ご提案の内容も参考に、多くの飲食店などがある新町や「のっけ井」を提供している古川市場に近く、気軽に青森市の食や文化を楽しんでいただける環境が整っているというウォーターフロント地区の特徴のほか、建設に必要な費用のことも考えて、青森市の賑わいにつながる施設となるよう検討していきます。

(教育委員会事務局 小野教育部長)

①の質問についてお答えします。ご質問の学校給食の提供量について、学校給食は、成長期にある児童生徒の皆さんの心身の健全な発達のため、栄養バランスの取れた食事を提供する必要があります。

このことから、児童生徒の皆さんの発達段階に応じて、文部科学省が定めている「学校給食摂取基準」に基づき、栄養教諭・学校栄養職員がこの基準値を満たした献立を作成し、学校給食を提供しています。

したがって、学校給食を残さず食べることで、必要な栄養バランスを満たすこととなりますので、



児童生徒の皆さんには、できれば残さず全部食べて欲しいと考えています。

次に、食べ残しを減らす取組について、教育委員会では、食べ残しが多い献立については、食材の組み合わせを変更したり、味つけにメリハリをつけたりするなど、献立の見直しを行っています。

これらの取組に加えて、児童生徒の皆さんには、食べ物の大切さや生産者、給食に携わる方々への感謝の心を育むため、給食時間の校内放送で呼びかけたり、「こんだてのお知らせ」、「給食だより」に記事を掲載して、各家庭に配付しています。

(企画部 織田部長)

③の質問についてお答えします。国際芸術センター青森の建物は、企画展を実施するギャラリーやコンサート等を行う野外ステージからなる展示棟、木工スタジオや世界最大級の銅版画プレス機がある銅版画スタジオからなる創作棟、全10室の宿泊棟の3つの棟で構成されており、建物の冷房について展示棟のギャラリーでは、冬期間に建物周囲に積もった雪を雪室に詰め込んで保存し、夏季にその冷風を用いて室温26度を保つようにしています。



青森公立大学によると、この雪室を活用した冷房設備は例年であれば6月中旬から稼働を開始し8月上旬頃まで使用できていたが、今季は記録的な猛暑のため、7月下旬には雪室の雪がなくなり冷房が機能しなくなったとのことです。

このため、ギャラリーに隣接する雪室冷房以外の冷房設備がある部屋から扇風機を用いて冷気を送るなどの対応をとったとのことです。

市域全域が特別豪雪地帯に指定されている本市では、雪対策の一環として雪の利活用に取り組んでおり、国際芸術センター青森の雪室冷房も有効な取組の一つであるものと認識しています。

これまでは、標高が高い森の中という冷涼な環境に建設されていることから、夏の暑さ対策としては雪室による冷房設備で対応可能であったが、近年は世界的にも温暖化が進んでいるといわれており、今後の暑さ対策については、その状況を見据えながら、青森公立大学との連携のもと、来館者やアーティストが快適に過ごすことができるよう適切に対応してまいりたいと考えております。

回答を受けての感想

私はあまり給食が好きではなく、残すことが多くありました。しかし、私たちのために栄養のことだけではなく食育のことも考えてくださっていること、それにたくさんの人が関わっていることを知り、明日の給食は絶対に完食しようと思います。

また、雪などの魅力の発信のため、市ではたくさんの工夫をしていることを教えてもらえました。良いところがたくさんある青森市なので、私たちも公式 Instagram でたくさん発信していこうと思います。ありがとうございました。



私たちからの意見提案 (Improve Aomori City by children)

<活動をはじめたきっかけ>

私たち Improve A.B.C. は、年度当初に「今年度活動したいこと」として「青森市の“困った”を改善し、より魅力的な青森市にしたい」、「青森市の魅力づくりの手伝いをしたい」と考えたメンバーで構成されています。

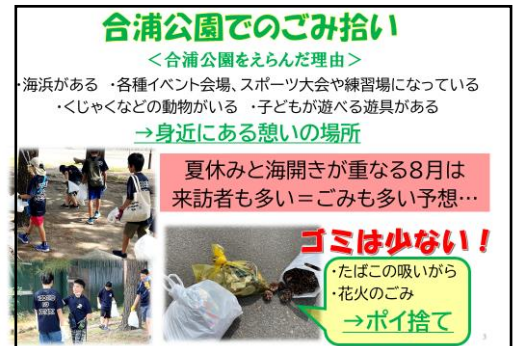
まず、私たちが改善したいと考えたのは、「多いごみの排出量・低いリサイクル率」と「低い読書率」です。そこで、それらを改善するために「合浦公園でのごみ拾い」や「青森市清掃工場の見学」、「おすすめの本の紹介」を行いました。



<これまでの活動>

○合浦公園でのごみ拾い

合浦公園を選んだ理由は、海浜があること、桜まつりなどのイベント会場になることなどから、青森市民の身近にある憩いの場所だと考えたからです。ごみ拾いを行った8月は夏休みと海開きの時期であったため、訪れる人も多く、落ちているごみも多いと思いましたが、想像よりも少なく、綺麗に使われていることがわかりました。しかし、たばこの吸い殻や花火のごみなど落ちてあったことから、ポイ捨てをする人がいることもわかりました。



○青森市清掃工場の見学

合浦公園で拾ったごみを実際に青森市清掃工場に持ち込み、施設内の見学をしました。青森市清掃工場は平成27年に新しく造られた綺麗な建物で、青森市だけでなく平内町や今別町、蓬田村から出るごみも処理しています。青森県は全国で3番目にごみの量が多く、リサイクル率は41番目と非常に悪いことを知りました。これらを改善するために自分たちにできることは分別です。ごみをちゃんと分別し、リサイクルできるものを分けることで、ごみの量が減ります。まずは、自分たちの家庭ごみから意識して取り組もうと思います。



そして、分別を間違えて燃えるごみに電池やバッテリー、スプレー缶、油が混ざってしまうと爆発や発火が起き、施設が停止する事態になってしまいます。実際に燃えるごみに混ざっていた電池が爆発して、処理施設の一部が壊れてしまう事件が複数件起きていることを教えてもらいました。こういう事故を防ぐためにも、分別は大事であることを学びました。

最後に、みんなで足踏み発電にチャレンジしました。終わった後は歩き方を忘れるくらい疲れましたが、それでも最高は3.6mWで、その日の清掃工場ではその約10億倍以上発電されていて驚きました。青森市以外のごみも処理して発電もできる清掃工場は素晴らしい施設だと思いました。

○おすすめの本の紹介

低い読書率を向上させるために自分たちができることを考え、公式Instagramでおすすめの本を紹介することにしました。自分たちのおすすめの本を見た人が、少しでも「読んでみたい！」や「おもしろそう！」など興味を持ってもらえれば、読書率が向上するきっかけになると思ったからです。メンバーそれぞれのおすすめの本を少しずつ投稿していますので、ぜひご覧ください。



そして、身近にある読書の機会と言え、学校での朝読書ですが、何の本を読もうか悩むことがあります。そこで、市民図書館などのおすすめの本以外に、同年代の子どもたちが実際に朝読書で読んでいる本やおすすめの本を手軽に知ることができる、例えば市内の全小中学生に配付されているタブレット端末で紹介し合える環境などがあれば助かるなあと感じました。

また、子ども会議委員が通っている学校では、各学期で、図書室で1番本を借りた人を表彰するところもあったので、さらに広げて、市内の全学校でランキングをつけることで競争心が生まれ、図書室を利用する人が増えるのではないかと考えました。

○仮想まちづくり

青森市の地図を見ながら、駅や道路、空港などはそのまま活かし、わたしたち子どもの目線から考える「魅力的な青森市」について話し合いを進め、さらなる青森市の魅力づくりについて考えます。

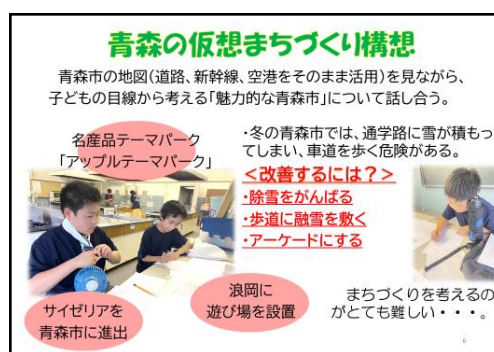
市役所などの公共施設、病院などの医療施設、学校などの教育施設は、現在の数や立地でも不便がないため、このままを想定し、そのほか新しく欲しいものを考えました。

例えば、青森市の観光施設を増やしたいので、札幌の“白い恋人テーマパーク”を参考に、名産品のテーマパーク“アップルテーマパーク”を、観光客も交通手段に困らない新青森駅近くに造ろうと考えました。

「青森市に欲しいチェーン店」や「生活する中で欲しいと思ったもの」については、今年から青森県にも進出し始めた「サイゼリヤ」が青森市にはまだないので欲しい、浪岡に遊び場が少ないからアミューズメント施設や動物園が欲しい、などの意見が出ました。

冬の青森市についても話し合い、雪を楽しめることも青森市の魅力の一つではありますが、除雪や排雪が大変であること、登下校の通学路にも雪が積もり、歩くのに苦労する場所や車道を歩かなければいけない場所があって危ない、などの意見がありました。どうすれば良いか話し合いましたが、除雪を頑張るしかないのではないかと、アーケードのようなものがあれば積もらないのではないかと、道路に温泉を活用したヒーターを設置して自然に融けるようにするのはどうか、などの意見が出ましたが、解決するのは難しい問題だと感じました。

話し合いが進まないこともあり、まちづくりはとても難しかったのですが、これらの活動を通して、大人も子どもも市民全員が、楽しく暮らせる魅力あふれる青森市を頑張って考えます。



○子どもの権利に関する活動

子どもの権利を広める活動として、7月に「浪岡子どもの祭典」において、遊びの中で子どもの権利や子ども会議をPRできるブースを自分たちで出展しました。ブースでは、的あて・クリアポーチのデコレーション・子ども会議委員が考えた子どもの権利に関するクイズラリーを行い、多くの子どもたちに楽しんでもらいました。

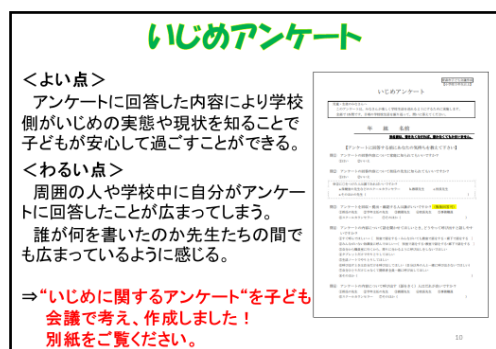
8月には、青森ねぶた祭に参加して、子どもの権利啓発物品を配り歩くなど、各種イベント等を通して、少しでも子どもの権利を知ってもらおうと活動を進めています。

また、私たち子ども会議は子どもの権利に関する講義を受け、子どもの権利についての知識を深めています。8月に、青森市子どもの権利擁護委員の先生から“権利とは？”から始まり、“権利と人権の違い”や、“子どもの権利の必要性”などを、具体例を用いた説明を受け、9月にはその講義を踏まえて「身近にある子どもの権利」として「守られていると思ったこと」「守られていないと思ったこと」などについて話し合いました。

小学生のグループでは、「子どもの権利で守られていたこと」として、5年生の委員が発表してくれた「学校内にフリースクールを作ろう！という意見が通ったことは、意見を表明し参加する権利が守られていると思う」についてみんなで考え、意見を表明し参加する権利だけでなく、安心して生きる権利や豊かで健やかに生きる権利も守られていることに気づくことができました。

中学生のグループでは、学校生活で子どもの権利が守られていたと感じた意見が多く、中でも学校の「いじめアンケート」は、アンケートに回答した内容により学校側がいじめの実態や現状を知ることによって私たちが安心して過ごすことができるという意見が出た一方、アンケートの内容を確認するための呼び出しにより、周囲の人や学校中に自分がアンケートに回答したことが広まってしまう、誰が何を書いたのか先生たちの間でも広まっているように感じるという意見から、安心して自分の意見を回答できないと賛否両論ありました。

そこで、私たちで「いじめに関するアンケート」を考えました。名前の記入を選べたり、呼び出し方法やアンケートを確認できる先生に関する設問を設置したり、「悩みに対して学校側で対応して欲しいか」を4段階で回答できるなど、私たち子どもの声を集めやすいようにしました。



いじめアンケート

<よい点>
アンケートに回答した内容により学校側がいじめの実態や現状を知ることができ、子どもが安心して過ごすことができる。

<わるい点>
周囲の人や学校中に自分がアンケートに回答したことが広まってしまう。
誰が何を書いたのか先生たちの間でも広まっているように感じる。

⇒「いじめに関するアンケート」を子ども会議で考え、作成しました！
別紙をご覧ください。

以上の、おすすめの本の紹介、仮想まちづくり、子どもの権利に関する活動の中で気づいたことについて、私たち子ども会議委員から3つの提案があります。

- ① 学校の朝読書で読む本を悩んでいる委員が多かったので、本を選ぶ参考になるため、学校を越えてお互いにおすすめの本を紹介できる制度を作りたいです。また、図書室の本の借り出し数ランキングを市内の全学校で競えるようにしてほしいです。
- ② 安全を確保できるように、冬期間の歩道除雪をもっと充実させてほしいです。

- ③ 学校の「いじめアンケート」について、子どもの声を集められるようにアンケートの設問内容や回収方法について検討してほしいです。また、「子どもの悩みや相談を言いやすい環境」を整備して欲しいです。

市からの回答

(西市長)

①の質問にお答えします。本を紹介できる制度については、各小・中学校の図書館では、所蔵する本のデータベース化を図り、現在では、市民図書館を含め、市内全小・中学校とのネットワーク化が進み、各校の図書館に備えている端末からデータベースを検索できるようになっており、様々な本との出会いが可能となっています。

また、教育委員会においても、学校図書館読書感想文コンクールを実施し、最優秀賞、優秀賞、優良賞、佳作の全入選作品を作品集にまとめ、市内小・中学校へ配布したり、「青い森の子ども読書新聞」を発行し、入選者が読んだ本を紹介したりするなどしており、良書の紹介となっています。

その他各校においても、図書館イベントの開催や集会等での図書委員会による発表、図書館だよりの発行等により、児童生徒のみなさんがたくさんの本に出会えるよう取組を行っているとの報告を受けています。

教育委員会では、読書活動において競争することが目的とならないよう、ランキングに代わるものとして、1人1台端末や読書カードに読んだ本のタイトルや作者などの読書記録を付け、自分の読書履歴を確認できるようにすることで、読書の質の向上につなげる取組を今年度から強化しました。これら読書カード等の取組により、多くの本に触れ、心を耕し、読書に親しんでいる児童生徒を表彰する学校もあると聞いています。みなさんも、読書カードを活用しながら、図書館へ足を運んでみてください。読んでみたい本に必ずや出会えると思います。

今日は教育長も出席して聞いておりますので、皆さんからいただいたご意見は教育長から校長先生にもお伝えいただいて、みなさんがこれまで以上にたくさんの本に出会えるようにしたいと思います。みなさん、充実した読書生活を心掛け、楽しい学校生活を送ってください。

(都市整備部 土岐理事)

②の質問についてお答えします。冬期における通学路除雪については、教育委員会とも情報共有し、児童・生徒の通学路の安全確保に努めています。今年度は、9月に開催された青森市通学路安全推進会議において、通学路の点検箇所が、現時点で、昨冬の277箇所から27箇所増の304箇所示されたことから、今冬においても教育委員会と連携し、通学路の確保に向けて取り組んでまいります。

本市の歩道除雪については、青森地区では、幅員2.5m以上は小型ロータリ除雪車により、また、幅員2.5m未満はハンドガイド式小型除雪機又は人力により作業を行うことを原則としているが、道路構造物等により、これらに依り難い場合は、車道排雪時に歩道も含めて同時に大型ロータリ除雪車



等の重機で作業を行います。また、浪岡地区では、原則として小型ロータリ除雪車により作業を行っています。

今後とも歩道については、機械除雪及び人力による除雪を実施し、安全な歩行者空間の確保に努めてまいります。

(工藤教育長)

③の質問についてお答えします。本市の各小・中学校では、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けて、皆さんからご質問のあったアンケート調査等を実施しており、「いじめた方」「いじめられた方」とともに教育相談を行い、ご家庭にも状況を伝えるとともに、共通理解を図りながら、その後の生活についての見守りを行っています。

その結果、青森市のいじめの認知件数は、令和4年度1年間で、小学校1,911件、中学校574件の合計2,485件となっており、小・中学校ともに全国の割合よりも高い状況となっています。

また、いじめの内容については、本市の小学校では、ひやかし・からかい、軽くぶつかられた・軽くたたかれた、嫌なことをされた・させられたの3つで約8割となり中学校も同様に約7割になっています。これらの結果は、皆さんの学校の先生方が、いじめのみならずいじめにつながる些細な行為もいじめと捉え、指導している結果であり、これを積極的認知と呼び、国においても認知件数が多いことは好ましく、大切なこととしています。

質問のありました「いじめアンケート」について、また「悩みを相談しやすい環境」については、本市の小・中学校では、児童生徒の皆さんが相談しやすく、素直な声を集められるよう、アンケート用紙を提出するに当たって、裏返しにしたり、一人一人提出したりすることや、用紙を活用せず、1人1台端末を活用してデータで提出していることなどの配慮をしているほか、1人1台端末については、定期的なアンケートの他、随時相談を受け付け、相談しやすい先生を選んで相談できるようにしていることや学校以外の相談機関を複数紹介していること、また、チーム担任制や教科担任制を実施し、複数の目で皆さんの生活を見守るようにしていること、二者面談や三者面談など定期的な相談機会、スクールカウンセラーなど、心理に関する専門家による相談機会を設けていること、授業の中でもいじめを取り上げるなどして、いじめについて学級全体で考える機会を設けていることなど、多岐にわたっています。

これらの対策については、各校の実態に応じて実施していますが、必要な場合には先生に相談してみてください。今日の皆さんからのご意見については、校長会議において私からも伝えておきたいと思っております。皆さんもまた、各校において、どんなことをしたらいじめが防げるのか、安心して楽しく通える魅力ある学校づくりについて、友達と一緒に考えてみてほしいと思っております。



回答を受けての感想

いじめアンケートについての回答を聞いて、学校でも僕たちが相談しやすいように様々な工夫をしてくれていることが分かりました。困った時には、自分から信頼できる先生に相談しに行くようにします。



市長総括

みなさん発表していただいてありがとうございました。それぞれに少し感想を述べさせていただきます。

まず、オン隊は良いところに目をつけました。ACAC や浅虫温泉は、これからもっと力を入れていかなくてはいけないスポットだと認識していたので、今回ちょうど良いアイデアをいただいたと思っています。

それから、実は青森オリジナルである棒パンですが、最初にイベントで広めたのは青森青年会議所の人たちでした。試しに子ども向けに棒パンをやってみたところ、ものすごい人気で、それ以来青森の文化として定着しました。ぜひ皆さんも、棒パンを楽しんでもらうと共に、今後ずっと青森の名物として続いていくように力を貸してもらいたいと思います。



ラッセランドにつきましては、まさにこれから具体的な検討を始めるところにありますので、今回のご意見は大いに参考にさせていただきます。

続いて、Improve A. B. C. の「青森市の困ったを改善しよう」という着眼点はとても良いですね。「ごみの排出量が多い」・「リサイクル率が低い」はまさに真剣に青森市で取り組んでいる課題です。解決策は、分別をしっかりとリサイクル率を上げることに尽きますので、皆さんもお家の中で分別する癖をつけてもらいたいです。

そして、「読書率が低い」ことについて、おすすめの本をまず読んでみるというのは良いことだと思いますので、皆さんもぜひ読書癖をつけてたくさん読んで欲しいと思います。

最後に「子どもの権利」ですが、これはとても重要なことです。いじめや虐待から子どもたちを守らなければいけない。子どもたちが安心して、健やかに成長して、未来の青森市長を担っていく人材になることを私も心から願っています。そのために子どもたちを守る、ということを行行政として一生懸命やっていきたいと思っていますので、何かあればいつでも言ってください。

皆さんの意見をしっかりと聞きましたので、それを一つ一つ市政に反映させるための参考にしていきたいと思っています。

最後に、私が凄く気をつけていることをお伝えします。それは「対話」です。まさに、この議会では普段議論をしていますが、意見を戦わせすぎると対立してしまいます。私は、どうやったら歩み寄ることができるかを考えたいと思っています。言った人や相手の考えを否定し一方的な話を言うのではなく、お互いに話を聞き合って、両者なるべく納得できる点を探し出す「対話」が重要です。

いろんな話し合いにおいて、意見を戦わせて対立を招くのではなく、対話を重んじて、お互いに話を聞き合い、お互いに納得できる部分を見つけてください。それが今後の未来に繋がっていくのだと思っています。みなさんには「対話」という言葉を一つ持って帰ってほしいと思います。

私からは以上です。今日は本当にありがとうございました。

閉会

最後に、記念撮影を行い、子ども会議フォーラム 2023 が終了しました。私たちが考えたことについて、市長や理事者から直接回答をいただき、私たちの声が市に届いていることが実感できました。今年度の残りの活動も実りあるものにできるよう、取り組んでいきたいと思っています。

